

令和 6 年 度

事業計画書



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

福岡県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

は じ め に

令和6年度は「日本赤十字社長期ビジョン（3期9年）」の5年目となり、ちょうど中間点を迎えます。本ビジョンは変化する社会の課題やニーズに対応した施策に積極的にチャレンジすることなどを目的としており、昨今の新たな社会課題を踏まえ、目標設定の見直しなどを行っています。当県支部も同ビジョンに準拠した本事業計画を策定いたしました。

日本赤十字社名誉副総裁宮妃殿下のご臨席を仰ぎ、九州各県にて赤十字事業推進に貢献された方を顕彰する「九州八県赤十字大会」が福岡県にて開催されます。大会を契機として、更なる赤十字運動（ムーブメント）の推進と活動内容の充実強化を図ってまいります。

『人間のいのちと健康、尊厳を守る』という日本赤十字社の使命の認知度を向上させるため、TVCMを活用した広報を強化するなど、新たな支援者開拓にも努めます。

近年の気候変動により激甚化・頻発化する風水害災害などに対し、日本赤十字社の総力を挙げて被災者の救護・支援活動を展開するため、行政や九州内の各県支部と連携した訓練や研修を実施します。さらにロジスティックス・センターとしての久留米赤十字会館の機能等を最大限に活かすことで、人的・物的両面から災害対応能力の強化を図ります。

また、いのちと健康を守る「防災・減災」の知識・技術を普及するための救急法や水上安全法などの講習や防災セミナーの開催に加え、管内赤十字施設等で取り組んでいる地域包括ケアの活動内容の充実に取り組み、「少子高齢化社会・多様性が進む社会に対応した地域づくり」に貢献してまいります。

今後とも、皆様方には温かいご支援を賜りますことをお願いいたします。

目 次

1 国内災害救護	3
2 救急法等の講習	6
3 青少年赤十字	11
4 国際活動	14
5 赤十字奉仕団	16
6 活動資金の募集	18
7 広 報	22
8 看護師等の養成	24
9 医療事業	25
10 血液事業	29
11 社会福祉	31
支部事務局諸行事	34
支部役員名簿	36
支部管内施設	37

1 国内災害救護

当県支部は、日本赤十字社本社と九州各県支部との連絡調整を行う九州ブロック代表支部として、県内だけではなく九州各地はもちろん、全国で発生する災害に迅速に対応できるよう、平時から訓練を行っています。

令和6年度は、これまで職種別に実施していた救護員訓練を、チームワークに重点を置いた全職種合同での訓練に変更します。

また、隔年で実施していた救護班総合訓練を、毎年実施することとし、救護員のさらなる実践力の向上を図ります。

今後は、九州ブロック各県支部との連携強化に努めるとともに、南海トラフ地震や首都直下地震に代表される大規模地震災害の対応計画を策定し、有事に備えます。

また、災害時の被害を軽減させるため、地域住民の「自助」「共助」の力の向上を図る「赤十字防災セミナー」の開催を充実します。ボランティア指導者の協力を得つつ、普及モデル地区を指定し、対象地区への重点的な普及を展開してまいります。

(1) 救護員の訓練

日本赤十字社は、災害救助法や災害対策基本法などで国や地方公共団体の救護活動に協力することが義務付けられており、日頃から救護活動に従事させるために必要な救護員を確保し、訓練を行っています。

令和6年度は、医師・看護師・主事等の全職種合同で訓練を実施し、救護班の各職種の連携強化、実践力の向上を目的とした訓練内容で実施します。

また、これまで本社で実施していた全国救護班研修会を本社・九州ブロック共催で開催します。研修会では、九州ブロック各県支部に所属する災害医療コーディネーター及びスタッフが指導を務め、救護班の知識・技術の向上のみならず、災害医療コーディネーター間の連携力の強化も図ります。

さらに、県や市等が主催する訓練にも積極的に参加し、他機関と顔の見える関係を構築します。

ア 支部主催の救護訓練

訓練名	時期	場所
救護員育成規程共通課程訓練	5月	各施設
救護員育成規程総合課程訓練	6月	福岡県支部 福岡ロジスティクス・センター
救護班総合訓練	9月	福岡ロジスティクス・センター
日本赤十字社九州八県支部合同災害救護訓練	調整中	熊本県支部
令和6年度全国救護班研修会 (本社・九州ブロック共催)	2～3 月頃	福岡ロジスティクス・センター
令和6年度原子力災害対応訓練	調整中	日本赤十字社鹿児島県支部
福岡県支部災害対策本部設置運営訓練	随時	福岡県支部

イ. 県・政令市等主催の防災訓練

訓練名	時期	場所
福岡県総合防災訓練	5 月	田川市・香春町
福岡空港航空機事故対処訓練	10 月	福岡市
福岡県石油コンビナート等防災訓練	10 月	福岡市
福岡市災害対策図上訓練	11 月	福岡市
北九州市防災訓練	11 月	北九州市
福岡県国民保護図上訓練	2 月	福岡県庁

【訓練の様子】



傷病者の血圧を測定する看護師
(遠賀川総合水防演習)



現場指揮所にて関係機関と協議する日赤救護班
(福岡県総合防災訓練)



EMIS (広域災害救急医療情報システム)
使用訓練



トリアージ訓練
(救護医師・看護師基礎・応用訓練)

(2) 赤十字防災セミナーの実施

日赤では、地域コミュニティにおける「自助」「共助」の力を高めることを目的として「防災教育事業（通称：赤十字防災セミナー）」を実施しています。

令和6年度は、引き続き、認知度向上のため、市町村の広報誌にセミナーの開催情報を掲載していただくなど地域コミュニティへの普及に努めるとともに、重点普及モデル地区を指定し、ボランティア指導員の協力を得ながら、普及活動を行います。

【実施計画】

対象	回数	講師
地域コミュニティ及び 赤十字奉仕団等	15回	ボランティア及び支部職員

【防災セミナーの様子】



災害への備えを実施する様子と当県支部の救護倉庫見学

(3) 福岡ロジスティックス・センター（久留米赤十字会館）の運営

今後、大規模災害が発生した際に、全国からの赤十字救護班の受入や被災情報の収集などを行う拠点として運営をしてまいります。

また、平時においては、全国救護班研修をはじめとする救護員の訓練を実施するほか、筑後地区の講習や防災セミナーの開催会場としても活用します。



救護員主事基礎・応用訓練



久留米赤十字会館内研修室

2 救急法等の講習

自分自身を守り、家族や地域の人々のいのちや健康を守るための知識と技術を習得できる講習を地域・職域等で行っています。

令和6年度は、講習1回あたりの受講者が少ない状況を鑑み、効率性と受講効果を高めるため、依頼団体（小規模単位）を所管する上位組織に働きかけ、包括的な講習の展開に努めます。

また、当県支部管内に3社会福祉施設と3医療施設を有するメリットを生かし、高齢者支援や地域貢献を目的とした地域包括ケアの取り組みを推進していきます。

さらに、新たな指導員を確保するため、救急法及び健康生活支援講習の指導員養成講習を行うほか、指導に不安を抱える指導員のフォローアップを引き続き行い、指導体制の見直しと強化を図ってまいります。

（1）講習計画の策定（総計 654 回 23,274 人）

ア 救急法（304 回 11,945 人）

日常生活における事故防止、医師又は救急隊に引き継ぐまでの急病やけがに対する救命・応急手当、搬送、災害時の心得などをお伝えしています。

近年、大学・専門学校からの講習依頼が多く、受講ニーズが高まっています。講習を通じて赤十字のよき理解者を育むため、赤十字思想の普及に努めます。

また、新たな指導員を確保する救急法指導員養成講習を実施し、指導体制の強化を図ります。

種 別		令和2年度 (実績)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	令和5年度 (見込)	令和6年度 (計画)
基礎講習	回数	3	27	37	33	29
	人数	102	429	896	914	880
救急員 養成講習	回数	0	3	19	15	20
	人数	0	28	399	418	610
短期講習	回数	77	113	162	188	255
	人数	1,864	4,587	5,634	6,612	10,455
計	回数	80	143	218	236	304
	人数	1,966	5,044	6,929	7,944	11,945



一次救命処置（心肺蘇生・AED）



三角巾によるきずの手当

イ 水上安全法（78回 5,480人）

水を活用して健康の増進を図るとともに、水の事故から生命を守るための泳ぎの基本と事故が発生した際の救助の方法をお伝えしています。

従前より特に児童・生徒の着衣状態で起きる水の事故に着目し、水泳の授業を担う教員を対象とした着衣泳指導講習を実施しています。

令和6年度は、現在、展開している福岡市内だけでなく、福岡県、北九州市教育委員会などに働きかけ、県内全域での実施に努めます。このことによって、学校教育の中で教員を通じて児童・生徒に統一した着衣泳（自己保全）の知識と技術を伝えることが可能となります。

種 別		令和2年度 (実績)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	令和5年度 (見込)	令和6年度 (計画)
救助員Ⅰ 養成講習	回数	0	0	0	2	3
	人数	0	0	0	42	80
短期講習	回数	2	7	24	31	75
	人数	23	413	682	2,004	5,400
計	回数	2	7	24	33	78
	人数	23	413	682	2,046	5,480



救助チューブを利用した救助



バックボードを利用した救助

ウ 健康生活支援講習（125回 3,599人）

自分自身の健康管理、家庭や地域の高齢者の健康な生活を支える地域活動の担い手として活動するために役立つ内容をお伝えしています。

令和6年度は、地域の高齢者や住民が集まるサロンでの介護講座や学校の児童・生徒の高齢者疑似体験（福祉体験）などの短期講習を中心に実施します。

また、地域等からの講習依頼において、県内各市町村で合同開催するなど包括的な講習展開ができるよう関係各所へ働きかけていきます。

さらに、健康生活支援講習指導員養成講習を実施し、新たな指導員を確保して指導体制の強化を図ります。

種 別		令和 2 年度 (実績)	令和 3 年度 (実績)	令和 4 年度 (実績)	令和 5 年度 (見込)	令和 6 年度 (計画)
支援員 養成講習	回数	1	2	6	5	4
	人数	8	24	54	60	90
短期講習	回数	42	36	52	45	121
	人数	953	762	1,194	1,716	3,509
計	回数	43	38	58	50	125
	人数	961	786	1,248	1,776	3,599



車椅子の操作説明



ベッドからの立ち上がり介助

エ 幼児安全法 (147 回 2,250 人)

核家族化に伴う子育て世代の不安の軽減を図り、子育てを支援する担い手を増やすため、子どもに起こりやすい事故の予防と手当、かかりやすい病気の看病の仕方、災害時乳幼児支援などをお伝えしています。

令和 6 年度は、保育園・幼稚園の保育士（教員）向けや各市町村のファミリーサポートセンターの子育て支援員向けの短期講習を中心に実施します。

また、地域等からの講習依頼において、県内各市町村で合同開催するなど包括的な講習展開ができるよう関係各所へ働きかけていきます。

種 別		令和 2 年度 (実績)	令和 3 年度 (実績)	令和 4 年度 (実績)	令和 5 年度 (見込)	令和 6 年度 (計画)
支援員 養成講習	回数	0	0	3	10	7
	人数	0	0	50	152	150
短期講習	回数	51	64	101	111	140
	人数	631	1,070	2,064	2,087	2,100
計	回数	51	64	104	121	147
	人数	631	1,070	2,114	2,239	2,250



乳児の一次救命処置（心肺蘇生・AED）



乳児の気道異物除去

（２）ICT の活用による講習事業の推進

コロナ禍を契機として、集合型の講習が実施できない場合に備え、インターネット環境を利用したオンラインでの講習を準備しており、引き続き ICT を活用したオンライン講習を継続します。

（オンライン講習メニュー）

救急法：心肺蘇生と AED の使い方（成人）

幼児安全法：心肺蘇生と AED の使い方（乳幼児）

健康生活支援講習：地域で支える認知症

防災セミナー：災害への備え

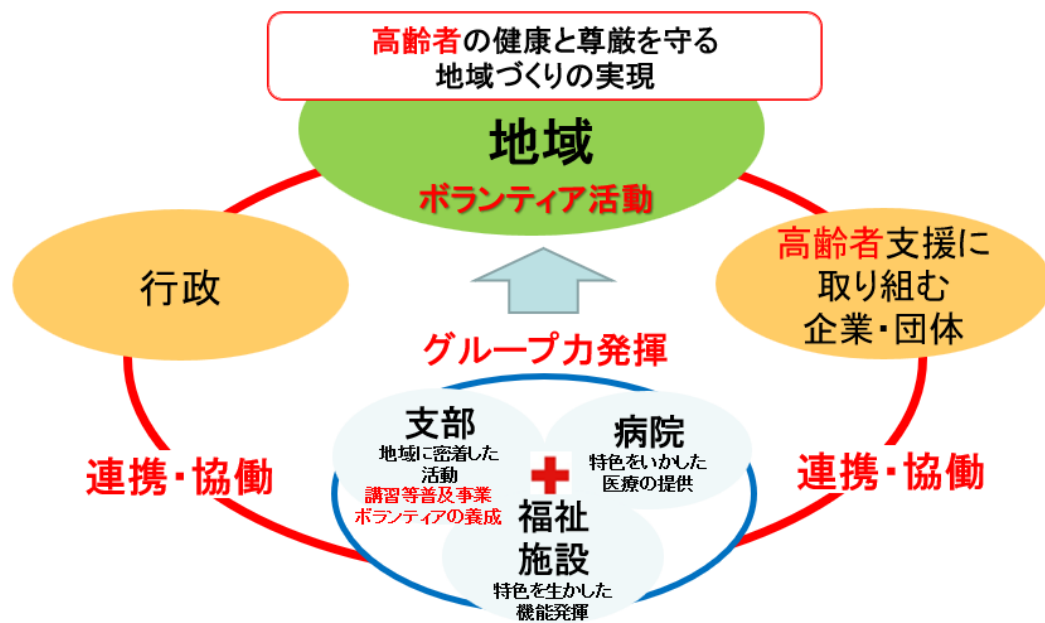


（３）地域包括ケアの推進

地域における高齢者支援を目的に、当県支部及び県内赤十字施設が所在する地域の中学校区内にある小、中学校の児童・生徒を対象に施設と連携し、福祉体験学習（車椅子体験・高齢者疑似体験）を実施します。加齢とともに低下する高齢者の身体機能を若年層に理解してもらい、高齢者を支える意識の向上につながるよう取り組んでいきます。

また、県内赤十字施設が取り組んでいる地域貢献の活動内容を支援し、「少子高齢化社会・多様性が進む社会に対応した地域づくり」を施設とともに実践していきます。

「地域における医療・保健・福祉の充実・強化に向けた連携（イメージ図）」



車椅子体験（福祉体験学習）



高齢者疑似体験（福祉体験学習）

3 青少年赤十字

青少年赤十字は、児童・生徒が赤十字の理念に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人びととの友好親善の精神を育成することを目的にしています。

この目的を達成するため、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つの実践目標と、メンバーの主体性を育む「気づき」「考え」「実行する」という態度目標を掲げ、学校教育の中でさまざまな活動を展開しています。

令和6年度は、青少年赤十字をより広く知ってもらうため、福岡県青少年赤十字指導者協議会と協力し、加盟校の各 JRC 行事への参加促進に力を入れていきます。

(1) 青少年赤十字の活動支援

青少年赤十字の普及のための支援を行います。

ア サポートプログラムの提供

- 例 ・職員等の派遣（加盟登録・更新式、救急法、着衣泳、福祉体験、幼児安全法 等）
・施設見学の受入（福岡県支部、赤十字施設への見学調整 等）

イ 授業支援（赤十字活動、国際人道法、国際理解、防災教育 等）

ウ 青少年赤十字活動実践校募集（5校/年）

エ 青少年赤十字研究推進校指定（指定期間 原則3年）

(2) リーダーシップ・トレーニング・センターの開催

県内の小・中・高等学校の加盟校のメンバーが一堂に会し、赤十字の精神に基づく自主性と指導性、救急法などの知識・技術などを集中して学習することで、「気づき」・「考え」・「実行する」態度を育て、学校内または地域において、青少年赤十字リーダーとして活動する児童・生徒を養成します。

令和6年度は、各加盟校で事前学習を行った後、1泊2日の宿泊型研修を行います。

事業名	時期	期間	場所	定員
福岡県青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニング・センター	8月	2日	筑前町	100名



フィールドワークを行う JRC メンバー



学習風景

(3) 国際交流事業（大韓赤十字社釜山広域市支社への JRC メンバー派遣）

青少年赤十字の実践目標の1つである「国際理解・親善」の一環として、姉妹協定を締結している大韓赤十字社釜山広域市支社 RCY メンバーと、仲良く助け合う精神を養うことを目的に、毎年交互に訪問・受入を実施しています。令和6年度は、本県青少年赤十字メンバーを派遣し、同支社メンバー・ホストファミリーのもとでホームステイを行います。

事業名	時期	期間	場所	定員
福岡県青少年赤十字国際交流事業（派遣）	7月	4日	大韓民国	7名



ホスト校（小学校）での対面式



ホームステイの家庭で過ごしているメンバー

(4) 青少年赤十字指導者の養成

青少年赤十字の活動を広め、その内容を充実させるためには、新規指導者の養成と指導力の向上を図ることが必要であることから、指導者養成講習会等を開催します。

会議・講習会名	時期	期間	場所	参加者（定員）
福岡県青少年赤十字指導者協議会総会・講演会	5月	1日	福岡市	教職員（60名）
福岡県青少年赤十字指導者養成研修	5月	オンデマンド		教職員（なし）
福岡県青少年赤十字指導者養成講習会	8月	2日	福岡県	指導者（30名）
九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会	8月	2日	長崎県	指導者（2名）
福岡県青少年赤十字研究会	2月	1日	福岡県	教職員（60名）



福岡県青少年赤十字指導者養成講習会の様子

（５）防災教育の推進

文部科学省の協力、気象庁の監修のもと、日本赤十字社本社において作成した防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」（小・中・高向け）、「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」（園児向け）を活用しての出前授業、炊き出し、災害時に役立つ講習を行うなど、防災教育を推進し、園児・児童・生徒が自然災害に対する正しい知識を持ち、自ら考え、判断し、危険から身を守ることができるようになることを目指します。

- ア 学校が主催する防災教育等において防災教育を実施
- イ 行政が主催する防災訓練等において防災教育を実施
- ウ 地域が主催する夏季休暇授業における防災教育を実施
- エ 教育委員会と連携し協力を得ながら、各地域の校長会、教頭会でプレゼンテーション
- オ 指導者の養成やメンバーの育成を行う講習会等での活用
- カ 加盟校で、防災教育プログラムを活用した授業を公開

【防災教育実施計画】

対象	回数	内容
園児・児童・生徒（防災教育出前講座）	20 回	・「防災教育プログラム」を活用した授業 ・炊き出し・救急法 ・災害時に役立つ講習
児童・生徒（リーダーシップ・トレーニング・センター）	2 回	
教職員（青少年赤十字指導者養成講習会）	1 回	



青少年赤十字防災教育プログラム

「まもるいのちひろめるぼうさい」（全校配布）



ハイゼックスを使った非常食体験

（６）新規加盟の促進

当県支部所在地である福岡市を重点的に、加盟勧奨を行います。

- ア 教育委員会や各教育事務所、地域で開催される校長会、教頭会での勧奨
- イ 未加盟校を訪問しての勧奨
- ウ 県内の指導主事及び教員を対象に福岡県赤十字研究会を開催

4 国際活動

現在、イスラエル・ガザ人道危機をはじめ世界各地で相次ぐ紛争や暴力行為、激甚化する自然災害などにより、多くの人々が支援を必要としています。

日本赤十字社は、世界 191 の国と地域に広がる各国赤十字・赤新月社や、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟と協力・連携し、共通の基本原則のもと、様々な人道危機に取り組んできました。今まさにその場所で支援を必要としている人に手を差し伸べる「緊急救援」から「復興支援」、そして自分たちの力で災害に対して立ち上がることができる「レジリエンス（回復力）」を高める活動を通じて、現代の、そして未来に続く人道危機に立ち向かいます。

令和6年度は、昨年度に引き続き要員を派遣した国等を対象に資金面での支援を行います。

（1）国際救援・開発協力要員派遣事業

日本赤十字社の国際活動は、日本赤十字社本社と支部・施設間の相互の十分な連携と調整の下で実施されます。

令和6年度も、安全管理を徹底したうえで、救援・支援のため、日本赤十字社本社と連携のもと世界各地へ要員を派遣する活動に取り組みます。



パレスチナの病院にてエコーのスキルを
伝承する福岡赤十字病院の医師



病棟回診中に現地医師とディスカッション
している福岡赤十字病院の医師

（2）国際支援事業

日本赤十字社では、国際赤十字が行う救援・開発プロジェクトに対して、人材、機材、資金の提供を行っております。

当県支部は、日本赤十字社本社と連携のもと、これまで国際救援・開発協力要員として派遣した国や地域に対し、継続的な資金援助に協力します。

事業名称	事業内容	支援額
バングラデシュ 保健医療支援事業	<p>バングラデシュ南部の難民キャンプには現在約 100 万人が経済的・社会的に大きな制約を受けながらの生活を余儀なくされています。</p> <p>日赤はバングラデシュ赤新月社とともに質の高い保健医療サービスの提供を目指し、医師や看護師、助産師の能力強化、避難民が保健衛生普及の担い手となるよう、避難民ボランティアの人材育成等健康保健活動を促進している。</p>	280 万円
レバノン プライマリーヘルス・ スケールアップ事業	<p>レバノンでは現在約 150 万人のシリア難民が避難生活を送っており、日赤はレバノン赤十字社と協力し、シリア難民とレバノンの貧困層を対象とした診療所の設備改修などの支援に継続的に取り組んでいる。シリア難民が貧しい生活を送る一方、難民を受け入れるレバノン側も経済危機に直面しており、診療所は地域の命の拠り所になっている。</p>	160 万円
アフガニスタン 気候変動対策事業	<p>アフガニスタンでは、干ばつや繰り返される洪水によって、国民の 7 割が生活する農村部の生計手段やインフラに深刻な影響を及ぼしている。</p> <p>日赤は「防災・減災活動」と、生計手段の強化・多様化から気候変動への適応を図る「生計支援活動」を 2 軸に、対象地域の各村とそこに暮らす人々のレジリエンス強化に取り組んでいる。</p>	60 万円

(3) 「NHK 海外たすけあい」キャンペーン

日本赤十字社では毎年 12 月 1 日から 25 日まで日本放送協会（NHK）及び NHK 厚生文化事業団との共催で「NHK 海外たすけあい」キャンペーンを実施しています。

令和 6 年度も世界各地で多発する紛争や自然災害等による犠牲者の緊急救援、保健衛生及び防災・減災等の分野における開発協力事業を実施するため、当県支部においても関係各所と連携して引き続き取り組みます。



NHK 福岡放送局での初日セレモニー



博多駅での街頭募金の様子

5 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、赤十字の人道・博愛の精神の下に赤十字の使命である人道的活動を実践しようとする人びとが集まり結成された奉仕者組織であり、事業を推進するために重要な役割を果たしています。

令和6年度は、各奉仕団や活動内容を広く発信し、新規団員の確保に努めます。

(1) 奉仕団活動の推進

地域に根差し地域社会をより良くする地域奉仕団の活動や、専門知識や技術を生かして行う特殊奉仕団の活動などを推進していきます。

ア 赤十字思想の普及や新規会員の確保

「人道の達成」を目的とする赤十字の活動について、地域の方々への紹介や奉仕団員に対する会員加入の促進及び新規会員の募集活動を行います。

イ 地域奉仕団研修会等の開催

県内の赤十字奉仕団員の活動の推進を目的に、情報共有や意見交換を行うため、地域奉仕団研修会、特殊奉仕団研修会、青年奉仕団研修会、奉仕団委員長会議を開催します。

また、各団でリーダーとして活動するボランティアが日本赤十字社本社主催研修に参加します。

ウ 新規奉仕団員への研修会開催

新たに奉仕団に入団した団員を対象に、支部指導講師が中心となってボランティア基礎研修を開催します。

エ 防災に関する活動

災害発生に備えて自治体主催の防災訓練への参加や赤十字防災セミナーの実施により、地域住民の防災意識を高め、地域の連携を図ります。

オ 災害時のための活動（炊き出し）

災害時に、地域と連携して炊き出しが行えるようにするため、防災訓練やイベントなどでメニューを工夫した炊き出しを行います。

カ 福祉に関する活動

各地域の福祉施設での奉仕活動、独居老人の訪問など、各奉仕団の特色を生かしながら活動を行います。

キ 青少年赤十字の推進

加盟促進、青少年赤十字活動の活性化や防災教育プログラムの普及に努めます。

ク 安全思想の普及

人びとの安全と健康を守るための赤十字救急法や水上安全法などの講習を通して、安全思想の普及に努めます。

ケ 統一ボランティア DAY2024 における活動

5月8日の世界赤十字デーを中心に5月を赤十字運動月間とし、清掃活動やあいさつ運動など地域のニーズにあった活動を行います。

(2) 大韓赤十字社釜山広域市支社との交歓研修

当県支部は、1975年（昭和50年）に大韓赤十字社釜山広域市支社と姉妹協定を締結し、以来48年間にわたり両支社（部）の赤十字奉仕会及び奉仕団員が、各年毎に相互に訪問し、お互いの赤十字活動に対する理解と友好親善を深めています。

新型コロナウイルスの影響により中断していましたが、令和5年度、大韓民国釜山市への奉仕団を派遣し、4年ぶりに再開しました。

令和6年度は、福岡県への奉仕団の招聘を行います。



令和5年に大韓赤十字社釜山広域市支社へ奉仕団派遣



釜山の奉仕団員と製パンを体験

(3) 奉仕団活動への助成等

奉仕団活動の充実や新規結成を促進するための助成等を行います。

- ア 特殊奉仕団及び青年奉仕団に対する運営費の助成
- イ 奉仕団新規結成に対する費用の助成
- ウ 各奉仕団の活動に役立つ情報や資料などの提供

(4) 青少年赤十字高校連絡協議会との交流会の開催

若年層で構成される福岡県青年赤十字奉仕団の新規団員を確保するため、青少年赤十字高校生メンバーとの交流会を開催します。

事業名	時期	期間	会場	定員
福岡県青年赤十字奉仕団 青少年赤十字高校連絡協議会 交流会	2月～3月	1日	福岡県支部	30名

6 活動資金の募集

日本赤十字社は、「救いを託されている」団体として、災害や感染症で失われるいのちを守り、その苦痛を限りなく軽減するための人道支援活動を行っています。これらの活動は、県民の皆様から寄せられる活動資金によって支えられています。

当県支部の活動資金は、地域の募集奉仕者の方々の直接訪問や町内会、自治会などを通じた地区区分の協力によるものであり、今後も皆様のご理解とご協力を得られるよう、地区区分との一層の連携強化を図り財政基盤の強化に努めます。

また、継続的かつ高額のご支援をいただいている紺綬会組織との連携を図り、更なる活動資金の増強・確保に取り組みます。

今後も、これまで以上に一人でも多くの方々に赤十字活動に対してのご理解をいただき、末永くご支援をいただけるよう努めてまいります。

(1) 活動資金目標額

目標額	種別	
	一般	
500,000,000 円		425,000,000 円
	法人・団体	75,000,000 円

(2) 地区区分における活動資金の募集

地区区分担当職員の方々には、これまで同様、「新規の会員及び協力会員の募集拡大」と「既加入会員の協力継続」を県民の皆様にご理解とご協力をいただけるよう募金活動をお願いしていきます。

より多くの方々に赤十字活動を知っていただき、活動資金に協力をいただくため、分かりやすい募集資材の作成を行うとともに、地区区分での活動資金募集チラシの全戸配布を推進していきます。



赤十字活動資金募集パンフレット



ステッカー

(3) 法人の活動資金協力の推進

法人の活動資金募集については、ダイレクトメールでご協力をお願いするとともに、支部職員で勧奨班を編成し、直接訪問による協力依頼（法人勧奨）を行っています。

この法人勧奨では、地区分区の職員や紺綬会役員の皆様からご協力やご紹介をいただきながら、活動資金の募集を行っています。

令和6年度は、新規法人開拓も含め、関係各位のご支援のもと、赤十字活動の主旨を広め、当県支部事業の基盤強化を図ってまいります。

(4) 遺贈・相続財産寄付の取組強化

近年、全国的に遺贈や相続財産寄付が増加しており、当県支部においてもお問合せをいただいております。多くの方からご寄付いただけるよう、その周知について地方銀行や信託銀行、県内弁護士会、税理士事務所等関係機関にご協力をお願いしてまいります。

また、県内の老人ホームにおいて、遺贈・相続財産の寄付先として選んでいただけるよう、出前セミナーを積極的に実施してまいります。

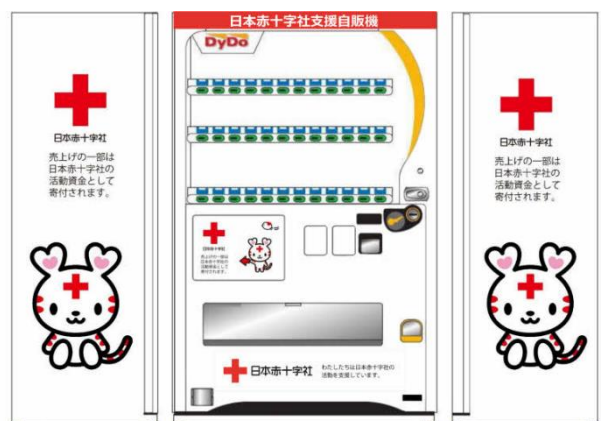


遺贈・相続財産に関するパンフレット

(5) 企業・団体の社会貢献事業とのタイアップ

店舗等へのチャリティーボックス（募金箱）の設置や収益の一部を寄付していただく支援型自動販売機の設置、赤十字支援マーク活用による支援などを通じて、企業・団体が赤十字支援を社会貢献（CSR）の一環として組み込んでいただけるよう、様々なメニューをご用意しています。

法人活動資金募集のためのダイレクトメールでのお知らせや法人勧奨で訪問した際での説明など、赤十字支援の裾野を広げていきます。



支援型自動販売機イメージ



チャリティーボックス（募金箱）

（６）福岡県日赤紺綬会の活動

福岡県日赤紺綬会は、昭和 34 年に北九州市小倉北区（当時の小倉市）で発足した「紺綬会」をもとに誕生した赤十字支援団体です。これを契機に、全国で同様の組織が誕生し、今では 47 都道府県全ての支部に紺綬（有功）会組織が発足しています。

令和 6 年度は、「福岡県日赤紺綬会第 64 回総会」が福岡市で開催される予定です。同総会では、多額の活動資金にご協力をいただいた個人、法人等を顕彰します。

時期：令和 6 年 11 月 開催予定

会場：福岡市内



福岡県日赤紺綬会第 63 回総会 式典



アトラクション（福岡大学附属若葉高等学校 ダンス部）

（７）九州八県赤十字大会の開催

令和 6 年度は、「九州八県赤十字大会」を福岡市で開催します。同大会では、日本赤十字社名誉副総裁宮妃殿下の御臨席を仰いで、九州各県にて赤十字事業推進に貢献された方々を顕彰します。同大会を契機として、日本赤十字社の社旨を広め、活動内容の充実強化を図り、赤十字思想の普及と会員の増強等により、更なる社業の発展を目指します。



令和 5 年度九州八県赤十字大会 式典（佐賀市）



アトラクション（キッズミュージカル TOSU）

(8) 赤十字奉仕団のご協力

福岡県内には54の赤十字奉仕団が組織され、様々な奉仕活動をしていただいています。

令和6年度も引き続き、赤十字活動資金の募集にもご協力いただき、安定的な活動資金確保に繋げてまいります。

(9) 血液センターと連携した活動資金募集の充実強化について

福岡県赤十字血液センターの協力を得て、県内全域の献血者、献血推進団体等に対し、活動資金募集用パンフレットを配付し、赤十字会員の増加と赤十字活動資金の増強に努めます。

(10) 商工会議所との連携について

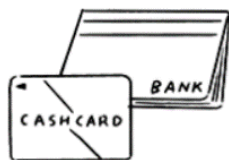
福岡商工会議所と連携し、所属会員の皆様へ活動資金募集用パンフレットをご案内する等、一人でも多くの方が赤十字の取り組んでいる人道支援活動に共感いただくよう努めます。

(11) キャッシュレス決済（寄付方法の利便性）強化について

「2025年までにキャッシュレス決済比率を40%」とする政府目標や新型コロナウイルス感染拡大による新たな生活様式へのシフトも追い風となり、キャッシュレス決済の機運が高まっています。この状況を踏まえ、ダイレクトメール等でキャッシュレス決済のPRをより強化してまいります。



クレジットカード



口座振替



J-Coin Pay「ぽちっと募金」

7 広報

赤十字の使命や活動内容を一人でも多くの方々に理解していただくため、様々な広報ツールをもとに情報発信を行っています。

令和6年度は、赤十字活動に対する県民への更なる認知度向上のため、本社一括出稿に加え、新たに当県支部単独による地元放送局へ TVCM の出稿を行います。

また、引き続き5月の赤十字運動月間を中心に、地区分区や奉仕団、管内施設などの関係団体の協力を得て赤十字運動を推進します。支部 HP や SNS の活用を通じて赤十字活動の情報を発信することで、防災・減災の意識と赤十字の認知度を向上させる取り組みも実施していきます。

さらに、支部主催の広報イベントの実施や各市区町村主催のイベントへの参加を通じ、赤十字への理解促進及び身近に感じていただくきっかけづくりに取り組みます。

(1) マスメディアを活用した広報

日本赤十字社では、例年5月の赤十字運動月間に本社企画による全国的な TVCM の出稿を行っていますが、令和6年度は当県支部単独でも地元放送局へ TVCM 出稿を行い、赤十字活動の認知度向上対策を強化します。

また、ここ数年継続している地元放送局とのタイアップでは、引き続き災害時の救護活動や救急法等の講習など当県支部の活動を取り上げてもらうことで、県民の皆様へ防災・減災意識の向上を図るとともに、活動資金の確保につなげていきます。

地元放送局とのタイアップ事業内容（予定）

ア 災害救護や青少年赤十字、ボランティア等についての紹介（テレビ生中継・ラジオ収録）

イ イベント開催や献血等の告知（テレビ生出演）

ウ 年間を通じた当県支部の活動についてのニュース取材（テレビ収録・インターネット）



令和5年度赤十字運動月間 TVCM



支部救護倉庫の取材

（２）赤十字運動月間の取り組み（５月）

赤十字の創始者アンリー・デュナンの誕生日（５月８日）と日本赤十字社の前身である「博愛社」の設立日（５月１日）である５月を「赤十字運動月間」とし、赤十字思想・活動に対する理解を深めてもらうイベントや広報活動を全国各地で展開しています。

県内においては、以下の広報活動を展開します。

- ア 本社制作の赤十字紹介用 TVCM を放送
- イ 福岡市天神地区の大型ビジョンにて CM を放映
- ウ 福岡市中心部の駅やバス停への広報用ポスター掲示
- エ 県内の歴史的建造物を使用したレッドライトアッププロジェクトの実施



天神地区大型ビジョン CM 放映



レッドライトアッププロジェクトの実施
(旧福岡県公会堂貴賓館)

（３）各種イベントを通じた広報活動

日本赤十字社本社が実施するキャンペーンに合わせ、当県支部でも啓発イベントを主催し、日本赤十字社や赤十字活動への理解・関心をもっていただくきっかけづくりに取り組みます。

また、各市区町村主催のイベントにも参加し、赤十字事業紹介パネル・救援物資などの展示や子ども用の救護服・ナース服の着用体験、日本赤十字社マスコットキャラクター「ハートラちゃん」による呼びかけなどを通して、PRを行います。



ハートラちゃんによる呼びかけ



各市区町村主催イベントの様子
(福岡市防災フェア)

8 看護師等の養成

日本赤十字社が行う救護員としての看護師養成は、130年以上の長い歴史と伝統を持つ重要な事業の一つであり、医療施設だけでなく、国内の災害救護活動、海外での災害・紛争犠牲者の救援のために活躍できる看護師を養成しています。

(1) 日本赤十字九州国際看護大学における赤十字看護師の養成

ア ビジョンと計画

建学の精神である赤十字の基本理念「人道」に基づき、平成13年の開学当初から掲げてきた「ひとりを見る目、その目を世界に」のスローガンの実現に向け、看護・保健医療の専門家育成のための教育等に取り組んでいます。現在、学部、大学院併せて約2,200人の卒業生が、赤十字の医療施設をはじめ様々な機関で活躍しています。

赤十字の理念の下、国内外の赤十字関係組織とのネットワークを強化・活用し、看護・介護の専門職を志す学生の実践力や、現職看護師の医療の高度化への対応力等の育成を実現していきます。

(人)

	看護学部看護学科		看護学研究科 (修士課程)		看護学研究科 (博士後期課程)	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員
1年	100	112	10	14	2	2
2年	100	107	10	12	2	1
3年	100	116	－	－	2	6
4年	100	95	－	－	－	－
計	400	430	20	26	2	9

(令和5年12月1日現在)



看護教育の演習を行う学生

イ 赤十字看護師養成のための修学支援

当県支部では、看護学部入学者選抜区分の一つである「赤十字特別推薦型選抜試験」の結果を基に面接を行い、支部特別推薦奨学生として大学に1名推薦し、入学後に奨学金を貸与して修学の支援を行っています。

また、進路が明確となる3年生の中から2名を限度に修学に必要な資金の一部を奨学金として貸与する福岡県支部奨学金制度により、ひとりでも多くの人材が赤十字の救護員となる看護師となるよう支援を継続します。

9 医療事業

(1) 福岡県内の赤十字病院

(令和6年度)

区分	許可病床数 (床)	診療科数 (科)	年間延患者数	
			入院(人)	外来(人)
福岡赤十字病院	511	36	165,340	234,160
今津赤十字病院	180	7	60,444	19,676
嘉麻赤十字病院	135	15	33,945	45,927

(2) 各病院の令和6年度の主な施策

ア 福岡赤十字病院

○質の高い安全な医療の提供

- ・最新鋭のリニアック装置、CT装置、MRI装置、血管造影装置(アンギオ)による質の高い医療を提供します。
- ・「地域がん診療連携拠点病院」及び「がんゲノム医療連携病院」として、地域におけるがん医療の更なる充実を図ります。
- ・臨床研究センターとして、高度新規医療の安全、適切な導入体制を整備します。
- ・信頼される医療を提供するための安全文化、改善文化の醸成及び感染管理体制の更なる充実を図ります。
- ・サイバー攻撃や不正アクセスに対するセキュリティ対策を強化します。

○赤十字医療施設としての貢献

- ・地域における災害拠点病院機能の充実及び医療救護資材・医薬品を整備します。
- ・災害救護及び国際医療救援に対する積極的な人材育成と派遣を推進します。
- ・さまざまな災害を想定したBCP(事業継続計画)に基づく自院の早期復旧と診療体制維持に向けた訓練等を実施します。
- ・医師・看護師不足病院への積極的な人材派遣協力を行います。

○公的医療機関として地域の医療の連携強化

- ・高度急性期を担う基幹病院として医療提供体制の充実と地域医療構想への確実な対応を行います。
- ・「地域医療支援病院」として医療機能及び連携の強化並びに地域住民、地域公的団体との協力体制を推進します。
- ・「感染症指定医療機関」としての近隣病院との連携及び社会的貢献を推進します。
- ・「へき地医療拠点病院」として、玄界島等へ積極的に医師を派遣します。
- ・Dr. Cross Heart や病診・病病連携連絡協議会、地域医療連携Webセミナーなどを利用し、地域医療機関と連携を強化します。

○患者満足度の向上

- ・患者サポートセンターにおける多職種協働の入退院その他の支援体制を強化します。
- ・医事業務の内製化における窓口業務の円滑化等による外来待ち時間の短縮を図ります。
- ・医療DXの推進による患者サービスの向上を図ります。
- ・患者満足度につながる療養環境を整備します。

○働きがい改革の推進

- ・最新 IT 技術搭載の電子カルテの活用および医療 DX の推進による業務効率化を促進します。
- ・働き方改革に対応した職員の勤怠管理の徹底とモチベーション向上につながるワーク・ライフ・バランスを推進します。
- ・職員休憩室「コモンズ」の積極的活用による快適な職場環境づくりに努めます。
- ・全職種における働き方改革の推進に向けた取り組みを行います。
- ・充実した福利厚生提供基盤を構築します。

○人材の確保と育成

- ・臨床研修病院として魅力ある病院づくり並びに教育体制の充実を図ります。
- ・「看護師特定行為研修指定研修機関」として高度かつ専門的な知識及び技術を修得した看護師の育成と活用環境の整備を行います。
- ・スキルスラボ等の開設による医療技能の向上を図ります。
- ・多職種合同研修実施による職員間コミュニケーションを活性化させます。

○経営の安定化

- ・診療効率の向上等による DPC 特定病院群の指定堅持と機能評価係数の向上を図ります。
- ・診療報酬改定における迅速かつ適切な対応策の検討を行います。
- ・病床利用率および平均在院日数等の実績に基づいた病床の有効活用を推進します。
- ・太陽光発電の設置等による省エネ対策および予算管理の徹底、共同購入等における経費節減の継続を推進します。
- ・人間ドック、健診センター及び治験受託収益等医業外収益の増収による病院経営の更なる安定化を図ります。



令和 5 年 12 月稼働「全身用 X 線 CT 装置」



松田医師 パレスチナ赤新月社医療支援事業派遣

イ 今津赤十字病院

○認知症医療の推進

- ・精神科、内科医師の協力のもと、福岡・糸島医療圏では今後も増加が見込まれる認知症患者の医療に取り組みます。
- ・入院では認知症専門病棟を有する病院としてきめ細かな治療やリハビリを行います。
- ・外来では「もの忘れ外来」により認知症の早期発見に努めます。
- ・当院の認知症サポート医による地域の認知症診療支援も積極的に行います。
- ・職員を対象とした「認知症サポーター養成講座」を定期的に開催し、職種を限定することなく職員の認知症に対する理解を深めます。

○療養病棟の長期療養患者受け入れ推進

- ・療養病棟入院基本料を1から2に区分変更することで、これまで基準が満たないため受け入れができなかった長期療養を必要とする患者を多く受け入れることができるようになります。長期療養患者の確保により、療養病棟の稼働率を安定させます。

○神経難病医療の推進

- ・神経難病を対象とする専門外来、障害者病棟の機能をより充実させるため、福岡大学病院神経内科との連携を強化し、急性期病院からの患者受け入れに努めます。
- ・「福岡県・佐賀県重度難病患者レスパイト入院事業」契約を継続し、レスパイト入院を推進します。

○在宅医療の支援

- ・福岡市西部地区及び糸島市医療圏の地域包括ケアシステムを支えるため、当院の地域包括ケア病棟、訪問看護ステーション及び重度認知症デイケアを活用し、在宅医療を支援します。

○地域との繋がり

- ・感染対策のために一時中止していた、「いまづカフェ」を本年度再開しました。「いまづカフェ」は地域住民が気軽に立ち寄れる憩いの場として機能しており、当院の看護師や作業療法士などが参加して健康相談や創作活動を行っています。こうした活動を通じて今後も地域住民の健康管理と認知症対応力の向上に努めます。

○医師の働き方改革の推進

- ・令和6年4月から医師に対する時間外労働の上限規制が適用開始となることから、労働基準監督署に医師の働き方改革に対応した宿日直許可申請を行いました。今後も医師の健康と地域の医療提供体制を確保しつつ、働き方改革を推進します。



「いまづカフェ」

ウ 嘉麻赤十字病院

○安定的な人材確保

- ・ 広報活動の充実・強化を図るとともに、人材紹介会社等を活用し、常勤医師確保に努めます。
- ・ 良質な医療サービスの提供体制を確保するために、医療系大学、専門学校との連携を図り、人材確保に努めます。

○医業収益の向上

- ・ 救急隊との連携を強化し、救急車応需率の向上（救急患者受入件数の増加）に努めます。
- ・ 地域の医療機関（診療所）とのネットワーク（医療連携）を強化し、患者数及び検査件数の増加を図ります。
- ・ 入所施設（福祉施設等）や在宅介護利用者への訪問診療を強化します。
- ・ 外来パス等の導入により、治療計画のもと定期的な検査を行い、検査件数の増加及び診療単価の向上を図ります。
- ・ 健診事業において、新規及び再受診者の増加に努めるとともに、オプション検査や保健指導を強化し、保健予防活動収益の向上を図ります。

○医業費用の削減

- ・ 医業収益の状況に即した適正な人員配置に努め、人件費の最適化を図ります。
- ・ 業務委託における契約内容（仕様）の見直しを行い、委託費の最適化を図ります。

○在宅部門の強化

- ・ 居宅介護支援体制を強化し、その他の在宅部門と相互に連携を図りながら、新規利用者の獲得に努めます。
- ・ 機能強化型訪問看護ステーションの算定要件の充足に向けた取組みを進めます。

○病床機能見直し

- ・ 特殊疾患病棟において対象患者の減少が顕著であるため、病床機能の見直しについて検討を進めます。



デイケア夏祭り



救急隊との連携連絡会

10 血液事業

(1) 福岡県赤十字血液センターの事業方針

ア 献血者確保

○若年者献血普及啓発活動

- ・献血セミナー、キッズ献血等の普及啓発活動を推進していくことで、10代や20代といった若年層が、将来の血液事業の安定を担う礎となるよう献血思想の醸成に努めます。
- ・令和4年9月に献血 Web 会員サービス「ラブラッド」のスマホアプリ版のサービスが開始され、16歳未満の献血未経験者もアプリをダウンロードすることで、プレ会員登録ができるようになりました。今後、献血セミナー等により広く周知しアプリ登録いただいたうえで献血情報を提供していくなど、将来の献血者として協力をいただけるよう推進します。

○予約献血の推進と複数回献血者の確保

- ・ラブラッドは、献血者への情報発信のほか、献血の予約や血液検査の結果、献血記録、次回献血可能日の表示等に加え、これまで献血会場でしかできなかった問診回答が事前に行えるなど利便性が向上しました。今後は、ラブラッドを介した献血依頼要請に対して献血者はアプリで献血予約を行うといった体制を構築するなど、アプリの利便性の更なる向上による会員登録増強を図るとともに複数回献血者の確保に繋げていきます。

○献血組織等との連携強化

- ・県内市町村の献血推進担当者、献血推進協議会及びライオンズクラブを対象とした研修会を開催し、献血計画の周知・説明や献血推進活動の事例発表・医療における輸血の現状についての講演を行うなど情報共有を図り、献血組織との連携強化に努めます。

○企業等への献血推進

- ・在宅勤務の普及等、新しい生活様式への移行を背景として企業等における団体献血が減少しています。そのため、団体献血に協力できなくなった団体献血の経験者やこれまで協力が得られなかった企業等に対し、身近な献血会場にてご協力をいただけるよう情報発信等を行います。

イ 安定供給

○需給予測の精度向上

- ・医療機関等との連携強化を図り、より一層輸血用血液製剤の需要動向情報の収集に努めます。
- ・精度の高い需要予測をもとに安定供給に努めるとともに、九州ブロック血液センターと協力し、広域的な需給管理体制の充実を図ります。
- ・輸血用血液製剤の受発注業務の効率化を図るため、新たな血液製剤発注システムを利用した Web 発注への転換を推進します。

ウ 地域医療機関への技術協力

○医療機関担当者への研修会の開催

- ・血液事業の専門機関として、地域医療機関の臨床検査技師や看護師を対象に、血液検査や輸血療法の向上を目的とした研修会を開催します。

○輸血用血液製剤の適正使用の推進

- ・医療機関での血液製剤取り扱い担当者を対象に、血液事業全般に関する現状や今後についての研修会を開催することにより、血液センターと医療機関との信頼関係の構築につなげ、輸血用血液製剤の安定供給・適正使用への理解を図ります。

(2) 令和6年度採血計画

(単位：本)

区分	全血献血		成分献血		合 計
採血数	200mL	400mL	血漿	血小板	
	525	150,520	39,835	21,178	212,058

(3) 令和6年度血液製剤供給計画

(単位：本)

区分	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	合 計
供給数	138,157	34,060	30,150	202,367



高校における献血セミナー



学生ボランティアによる献血呼びかけ
(「博多どんたく港まつり」パレード)



イベント会場での献血バスにおける全血献血
(明治安田生命「シャレンで献血」)



献血功労者表彰式

11 社会福祉事業

(1) 福岡県内の社会福祉施設

【定員数】

(人)

区分	特別養護 老人ホーム	ショート ステイ	デイサービス センター	軽費 老人ホーム
大寿園	150	8	30	
やすらぎの郷	100	20	35	20
豊寿園	100	20	12	

※各施設に指定居宅介護支援事業（ケアプランセンター）を併設しています。

(2) 各施設の令和6年度の主な施策

ア 特別養護老人ホーム大寿園

○安定した利用者の確保

- ・介護、看護が連携したケアを提供し、入院を最小限に抑えるとともに、ベッドコントロールによる空床期間の解消に努め、安定した利用率の維持に努めます。

○利用者の安全対策強化

- ・従来のナースコールに代わる「見まもりカメラ」を導入し、遠距離から居室内の様子をリアルタイムに確認する等、より安全に配慮した環境整備に努めます。

○介護人材の安定確保と職場環境の整備

- ・福祉系大学や専門学校と連携し、介護職員として働く外国人人材の確保を行います。また実習生の受入れを再開することにより介護職員確保に繋がります。
- ・職員配置や働き方を見直し、職員の負担軽減を図ると共に働きやすい環境づくりを目指します。
- ・ICT機器の利用を活性化すると共に新たな機器の導入を検討し、業務簡素化や効率化に繋がります。

○ボランティア・地域との連携と情報発信

- ・コロナ禍で停滞していたボランティアや地域との連携を再開し、利用者の生活に活気を取り戻すよう取り組みます。
- ・園ホームページの改修を行い、施設の魅力を分かりやすく伝えるとともに、施設内の生活を「見える化」し、ご家族が安心できるよう情報発信を行います。

○経営改善と施設整備

- ・介護報酬改定等に係る情報収集に努め、新たな加算等の取得により増収を図ります。
- ・行政等の各種補助金を活用し、老朽化した施設設備を計画的に更新し、利用者が安心して暮らせる環境や職員が安全に働く環境を整えます。



今宿納涼花火大会



大寿の集い（敬老会）

イ 特別養護老人ホームやすらぎの郷

○安定した利用者確保

- ・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所のケアマネージャー等との連携を強化し、まずは多くの方にデイサービスを利用いただき、その後は、ショートステイ、特別養護老人ホームの入所まで切れ目ない介護サービスを提供し、看取りに至るまで長期間に亘り利用者とそのご家族に寄り添える施設として安定的に利用者を確保できるよう体制を整えます。
- ・デイサービスとショートステイの空床情報のリアルタイム発信や、特養で退所者が発生した場合において、待機者の入所手続を迅速化することにより空床を減らし利用率の向上を図ります。

○利用者の安全性及びサービスの向上

- ・嘱託医・協力医療機関と連携し健康維持に努め、看護師や介護士による日頃の健康観察を十分に行い入院のリスクを少しでも減らします。
- ・新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症における感染防止対策を徹底します。
- ・見守りカメラを活用し入所者の活動傾向を検証するなど、転倒の防止と安全性を向上させます。
- ・リクライニング機能が充実した介護ベッドに一部更新し、嚥下機能が低下している入所者の誤嚥性肺炎の予防に繋がります。

○介護人材の育成及び職場環境の整備

- ・実施者研修・実践リーダー研修・指導者研修などにより職員の資質向上を図ります。
- ・喀痰吸引研修など将来的に介護報酬の加算取得に繋がる研修に積極的に参加させます。
- ・個人面談やハラスメント研修等を実施しメンタルヘルス対策を充実します。
- ・有給休暇取得促進や時間外勤務の削減等働きやすい職場環境を整備します。

○地域との連携及びボランティア活動の強化

- ・ホームページ等でボランティア活動の加入を促進します。
 - (ア) 介護支援活動部門（見守りや着替え、洗濯などの支援活動）
 - (イ) 文化的支援活動部門（歌・踊り・楽器演奏・生け花・書道などの支援活動）
 - (ウ) 施設運営・環境整備部門（清掃や草取りを含む事務補助などの支援活動）
- ・ふくおかライフレスキュー事業に職員を派遣し、専門性を活かした社会貢献を継続します。
- ・地域の教育機関からの施設見学等を積極的に受け入れます。
- ・もっとクロス講座“地域と老いを考える会”を継続して開催します。
- ・地元自治体から要請の認知症初期集中支援チーム（桜花）への活動を継続します。



秋祭り



宇美商業高校との交流

ウ 特別養護老人ホーム豊寿園

○介護体制の更なる充実

- ・福岡県介護ロボット導入支援事業により令和5年度整備予定の見守り機器の導入によって従来の介護体制の強化を図り、利用者の安全な生活環境への改善及び介護職員の負担軽減・業務の効率化に努めます。
- ・開園以来取り組んできた重度の認知症介護に加え、歯科衛生士による口腔ケアや管理栄養士による個別栄養管理の充実、さらには機能訓練や看取り介護の充実に取り組みます。

○福祉人材の安定確保

- ・福祉人材安定確保のため、北九州市内にある福祉科を持つ高等学校の進路指導部と連携を図り実習生の受け入れを行うことで採用に繋げるとともに、派遣労働者の活用だけでなく、シニア層の有効活用を推進します。

○職員の資質向上や職場環境の整備

- ・直接処遇職員の資質向上や高いモチベーションを保ち、質の高い介護サービスを提供していくため、職員が受講すべき研修を整理し外部研修への積極的な参加を促し、職員の各種スキルの向上を図ります。
- ・安全衛生委員会が主体となり、職場環境の改善に取り組むとともに、職員のストレス低減に努め、働き方改革を進めます。

○ボランティアと地域福祉の連携強化

- ・コロナ禍において停止していたボランティア活動や地域交流事業の受け入れを再開するとともに新たな活動内容のニーズの掘り越しを図ります。
- ・「地域に愛される施設を目指す」という基本理念の基、特に認知症専門施設としての知識やノウハウを地域へ還元し、貢献するため、福祉体験講座の開催や地元校区の小中学校等へ講師派遣を行います。
- ・北九州市と締結している「災害時の福祉避難所の設置運営に関する協定書」に基づき、台風等災害発生時には、福祉避難所を開設し、要援護者を受け入れます。

○計画的な施設整備改修

- ・改修が必要と予測される設備機器等について、事業運営に支障が生じることのないよう「設備機器改修計画」に沿って計画的な改修に取り組みます。



小学生を対象とした高齢者疑似体験



行事「七夕」

支部事務局諸行事

5月

赤十字運動月間	福岡県
レッドライトアッププロジェクト	福岡県
全国赤十字大会	東京都
大韓赤十字社釜山広域市支社交歓研修会（招聘）	福岡県
支部監査委員による監査	福岡市
地区本部・地区・分区赤十字担当職員研修会	福岡市
福岡県青少年赤十字指導者協議会総会・講演会	福岡市
福岡県総合防災訓練	田川市・香春町
救護員育成規程共通課程訓練	（動画配信）
福岡県青少年赤十字指導者養成研修	（動画配信）

6月

第1回評議員会	福岡市
教職員対象着衣泳体験指導講習	福岡県
救護員育成規程総合課程訓練	福岡市 久留米市

7月

献血運動推進全国大会	岐阜県
福岡県青少年赤十字国際交流事業（派遣）	大韓民国（釜山市）

8月

福岡県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター	筑前町
福岡県青少年赤十字指導者養成講習会	筑前町
九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会	長崎県

9月

支部救護班総合訓練	久留米市
ワールド・ファースト・エイド・デー（世界救急法の日）	福岡県
全国支部事務局長会社会業振興特別委員会	福岡市

10 月

支部災害対策本部設置訓練	福岡市
福岡空港航空機事故対処訓練	福岡市
福岡県石油コンビナート等防災訓練	福岡市
紺綬会常任委員会議	福岡市

11 月

全国紺綬・有功会会長協議会総会	岩手県
福岡県献血功労表彰式	福岡市
日本赤十字社九州八県支部合同災害救護訓練	熊本県
福岡市災害対策図上訓練	福岡市
福岡県日赤紺綬会第 64 回総会	福岡市
九州八県赤十字大会	福岡市

1 月

赤十字救急法指導員養成講習	福岡市
赤十字健康生活支援講習指導員養成講習	福岡市
九州ブロック赤十字奉仕団委員長及び支部事業担当課長会議	佐賀県

2 月

第 2 回評議員会	福岡市
福岡県青少年赤十字研究会	福岡市
地区本部・地区・分区赤十字担当者会議	福岡市
福岡県国民保護図上訓練	福岡市

3 月

ACTION！防災・減災	福岡市
福岡県地域赤十字奉仕団委員長会議	福岡市
紺綬会常任委員会議	福岡市
救急法・水上安全法普及委員会総会	福岡市
救急法・水上安全法指導員伝達研修会	福岡市
健康生活支援講習・幼児安全法指導員伝達研修会	福岡市

支 部 役 員 名 簿

評議員(69名)

役職	氏 名
支 部 長	服 部 誠 太 郎
副支部長 (2名)	大 曲 昭 恵
	白 石 博 昭
監査委員 (2名)	森 山 敦 文
	平 島 研 二
本社理事 (1名)	荒 牧 智 之
本社代議員 (9名)	高 島 宗 一 郎
	武 内 和 久
	井 上 澄 和
	美 浦 喜 明
	木 下 幸 子
	荒 牧 智 之
	澁 田 繁 晴
	津 村 洋 一 郎
	日 向 祥 剛

No.	氏 名
1	山 地 正 樹
2	北 原 明 彦
3	澁 田 繁 晴
4	平 野 能 章
5	三 亀 幹 治
6	高 島 宗 一 郎
7	武 内 和 久
8	今 井 是 生
9	木 下 幸 子
10	庄 野 まり子
11	小 松 浩 子
12	藤 田 秀 之
13	谷 口 恭 二
14	高 木 三 郎
15	井 口 宏 樹
16	久 田 章 浩
17	西 村 孝 志
18	満 生 美 保
19	駒 田 浩 良
20	谷 延 正 夫
21	島 本 喜 多 江
22	園 秀 一
23	中 村 啓 子
24	尊 田 利 文
25	北 原 正 利

No.	氏 名
26	奥 野 静 人
27	大 石 紀 代 子
28	喜 洲 淳 哉
29	森 川 満
30	神 野 洋 一
31	太 田 康 子
32	武 田 信 一
33	浜 和 枝
34	川 崎 勝 之
35	横 溝 敏 子
36	中 村 珠 美
37	村 津 正 祐
38	武 井 政 一
39	井 上 節 子
40	村 上 卓 哉
41	金 子 健 次
42	三 田 村 統 之
43	西 田 正 治
44	倉 重 良 一
45	工 藤 政 宏
46	後 藤 元 秀
47	福 田 浩
48	平 井 一 三
49	井 上 澄 和
50	井 本 宗 司

No.	氏 名
51	加 地 良 光
52	伊 豆 美 沙 子
53	楠 田 大 蔵
54	月 形 祐 二
55	田 辺 一 城
56	原 崎 智 仁
57	高 木 典 雄
58	塩 川 秀 敏
59	林 裕 二
60	赤 間 幸 弘
61	松 嶋 盛 人
62	武 末 茂 喜
63	安 川 茂 伸
64	古 野 修
65	松 崎 利 雄
66	鈴 田 博 之
67	広 松 栄 治
68	道 廣 幸
69	遠 田 孝 一

支 部 管 内 施 設

支 部

施 設 名	事務局長	所 在 地	電 話 番 号
日本赤十字社福岡県支部	後藤 和孝	〒815-8503 福岡市南区大楠3-1-1	092-523-1171
久留米赤十字会館		〒839-0801 久留米市宮ノ陣3-4-27	0942-36-5858

病 院

施 設 名	院 長	所 在 地	電 話 番 号
福岡赤十字病院	中房 祐司	〒815-8555 福岡市南区大楠3-1-1	092-521-1211
今津赤十字病院	藤井 弘二	〒819-0165 福岡市西区今津377	092-806-2111
嘉麻赤十字病院	小野 洋	〒821-0012 嘉麻市上山田1237	0948-52-0861

血液センター

施 設 名	所 長	所 在 地	電 話 番 号
福岡県赤十字血液センター	熊川 みどり	〒818-8588 筑紫野市上古賀1-2-1	092-921-1400
福岡県赤十字血液センター 北九州事業所		〒806-0044 北九州市八幡西区相生町15-1	093-631-1211
献血ルーム おっしょい博多		〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街2-1 博多バスターミナル8階	092-476-1400
献血ルーム キャナルシティ		〒812-0018 福岡市博多区住吉1-2-25 キャナルシティ・ビジネスセンタービル1階	092-272-5853
献血ルーム 天神西通り		〒810-0041 福岡市中央区大名1-15-1 天神西通りスクエア地下1階	092-726-1188
献血ルーム 魚町銀天街		〒802-0006 北九州市小倉北区魚町1-3-3 白樺ビル	093-551-1211
献血ルーム くろさきクローバー		〒806-0036 北九州市八幡西区西曲里町3-1 イオンタウン黒崎1階	093-644-1211

社会福祉施設

施 設 名	園 長	所 在 地	電 話 番 号
特別養護老人ホーム大寿園	森下 亨	〒819-0165 福岡市西区今津520	092-806-6100
特別養護老人ホームやすらぎの郷	荒木 ひとみ	〒811-2208 粕屋郡志免町大字吉原600	092-936-2022
特別養護老人ホーム豊寿園	熊本 貴志	〒800-0112 北九州市門司区大字畑1808-5	093-481-1121

看護大学

施 設 名	学 長	所 在 地	電 話 番 号
学校法人日本赤十字学園 日本赤十字九州国際看護大学	小松 浩子	〒811-4157 宗像市アスティ1-1	0940-35-7001

令和 6 年度 事業計画書

令和 6 年 1 月 19 日発行

発行 日本赤十字社福岡県支部

〒815-8503 福岡市南区大楠 3 - 1 - 1

T E L 092 (523) 1171 (代表)

F A X 092 (521) 2552

H P <https://www.jrc.or.jp/chapter/fukuoka/>